

Taiwan Kyushu Innovation & Technology Conference

 九州・台湾 

クリエイティブカンファレンス

in 福岡

2024

10.16 [WED] · 17 [THU]

エルガーラホール 大ホール

(〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目4-2)

実施報告書

目次

1. 開催概要
2. 参加者情報
3. 10月16日(水) 開催内容
4. 10月17日(木) 開催内容
5. 登壇者プロフィール
6. 当日の様子(写真)

1. 開催概要

- (1)名称 九州・台湾クリエイティブカンファレンスin福岡
(Taiwan Kyushu Innovation & Technology Conference)
- (2)日程 令和6年10月16日(水)～10月17日(木) 2日間
- (3)時間 10月16日(水) 9:00～18:10
10月17日(木) 9:00～17:30
- (4)場所 エルガーラホール 大ホール(福岡市中央区天神1-4-2)
- (5)内容 日本・台湾・アメリカの産官学金のトップリーダー・研究者が一堂に会し、経済交流の促進や関係性深化の機会として2日間の日程で開催。
- (6)目的 九州と台湾の経済交流促進
経済人材のネットワーク確立
福岡県の経済発展ビジョンの共有
- (7)主催 九州・台湾クリエイティブカンファレンス実行委員会
(九州経済フォーラム・スタンフォード大学創薬医療機器開発研究所・Asia Pacific Association for Academic and Industrial Cooperation)
- (8)共催 (一社)九州経済連合会
(一社)福岡県中小企業経営者協会連合会
- (9)後援 福岡県
福岡市
北九州市
九州商工会議所連合会
九州経済同友会
(公財)九州経済調査協会
Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)
Digital Finance and Industry Development Research Center,
College of Management, National Taiwan University
-
-

1. 開催概要

(10)協賛 九州旅客鉄道株式会社
THE TAIWAN KYUSHU実行委員会
Protech Systems Company, Ltd.
Chang Type Industrial Co. Ltd.
株式会社MPJ
APAMAN株式会社
アビスパ福岡株式会社
Yazaki Innovations, Inc.

2. 参加者情報

(1)参加費

日付	金額
10月16日(水)	5,000円 (税込)
10月17日(木)	5,000円 (税込)

(2)参加者数

項目	10月16日(水)	10月17日(木)	計
参加者数	377名	180名	557名

(3)延べ登壇者数

46名

3. 10月16日(水) 開催内容

時間	セッション名	登壇者所属・氏名
9:00	オープニング	九州経済フォーラム 会長 石原 進
9:20	昨年度開催の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンフォード大学 SLDDDRS所長 西村 俊彦 ・アジア太平洋学術産業連携協会 理事長 Chen-en Ko ・薩摩川内市 未来政策部長 古川 英利
9:55	半導体産業のESG	<ul style="list-style-type: none"> ・TSMC シニアバイスプレジデント Lora Ho ・JASM 取締役社長 堀田 祐一
10:45	半導体のサプライチェーンの 発展と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・Topco Group グループ会長代行兼チーフ・ サステナビリティ・オフィサー Robert Lai ・中華経済研究院 副院長 Jiann-Chyuan Wang ・アジア太平洋学術産業連携協会 理事長 Chen-En Ko
11:20	九州・台湾における 中小企業の連携と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・本多機工株式会社 代表取締役社長 龍造寺 健介 ・チャン・タイプ・インダストリアル株式会社 副社長 Annie Chang ・Gomore Inc 社長CEO Hsin-Fu Kuo ・Aves Capital Group 常務取締役 Susan Ko
13:30	福岡県産業政策発信	福岡県知事 服部 誠太郎

3. 10月16日(水) 開催内容

時間	セッション名	登壇者所属・氏名
14:00	2050ネットゼロエミッションに向けたワイドバンドギャップ・ウルトラワイドバンドギャップ半導体による未来エレクトロニクスの社会実装加速	名古屋大学 教授 天野 浩(ノーベル物理学賞受賞者)
14:40	産学連携での戦略的人材育成	・九州大学 総長 石橋 達朗 ・九州大学 副学長 白谷 正治
15:50	宇宙ビジネスを九州の新たな成長エンジンに	・JAXA 宇宙戦略基金事業部 次長 上村 俊作 ・株式会社インフォステラ 代表取締役CEO 倉原 直美 ・株式会社QPS研究所 ファウンダー 八坂 哲雄 ・株式会社Fusic 取締役副社長 浜崎 陽一郎
16:50	高齢化とME-BYO	・スタンフォード大学 SLDDDRS所長 西村 俊彦 ・Lee's Medical Corporation Chief Superintendent Hsu-Tung Lee ・慶應義塾大学 教授 満倉 靖恵 ・医療法人すずらん会たろうクリニック 理事長・院長 内田 直樹 ・福岡市 福祉局 ユマニチュード推進部 部長 笠井 浩一 ・株式会社MPJ 会長 大口 貴弘 ・慶應義塾大学整形外科臨床 特任教授 名倉 武雄 ・神奈川県知事 黒岩 祐治(ビデオメッセージ)

3. 10月16日(水) 開催内容

(1) 開会挨拶

九州経済フォーラム 会長 / 石原進氏



九州・台湾クリエイティブカンファレンス第2回が福岡で開催される背景には、九州と台湾の連携強化や、半導体を中心とした産業の再活性化への期待があります。昨年の初回は薩摩川内市で開催され、今回もスタンフォード大学の西村教授と台湾大学名誉教授のチェンエン・コウ先生が中心となり、国内外から幅広い分野の専門家をお招きいただきました。特にTSMCの熊本進出を契機に、九州は半導体産業の復活が進行中であり、土地や人材、経済的活性化が注目されています。本カンファレンスでは、半導体の製造やサプライチェーン、中小企業の役割、人材育成、高齢化問題、宇宙ビジネス、ベンチャー企業とファイナンスなど、多岐にわたるテーマが議論されます。これを通じて、九州と台湾の連携をさらに深め、未来の産業基盤を築くことを目指しています。

(2) 昨年度開催の振り返り

スタンフォード大学 SLDDDRS 所長 / 西村俊彦氏



第2回となる九州・台湾クリエイティブカンファレンスの開催に至る背景として、九州と台湾の地理的・文化的近接性や長年の民間交流が挙げられます。昨年は主に半導体技術、高齢化、起業支援、最先端科学、金融リテラシー、サーキュラーエコノミーの6つのテーマで議論が行われ、大きな成果が得られました。今年はさらなる進展として、台湾と九州の中小企業連携や金融教育、最先端科学分野での交流が強化され、サーキュラーエコノミーの具体的な実践が期待されています。九州と台湾をハブとした持続的な成長戦略を目指し、関係者の協力のもと活動を拡大させていく方針です。

薩摩川内市 未来政策部 部長 / 古川英利氏



鹿児島県の薩摩川内市は「サーキュラー都市」の実現に向けて取り組みを行っています。市は高度な人材育成環境を活かし、循環型経済の拠点整備に注力しています。具体的には、川内港の耐震強化や国際物流ターミナルの整備、南九州西回り自動車道の推進、新産業用地の開発などを実施しています。

また、火力発電所跡地を活用した「サーキュラーパーク九州」を拠点に、資源循環や教育プログラムの提供を計画しています。この取り組みは地域活性化や脱炭素化を促進し、地方創生やグローバル展開を視野に入れたモデルケースを目指します。市民主体の仕組み作りを重視し、九州全体を支える自治体として発展させていきたいと考えております。

アジア太平洋学術産業連携協会 理事長 / Chen-en Ko 氏



第2回の九州・台湾クリエイティブカンファレンスに参加し、多国籍の専門家が集うこの場に立てることを光栄に感じています。このイベントは、テクノロジーとイノベーションを活用して社会をより良くするための重要なプラットフォームです。特に、日本と台湾の協力を深化させ、経済や社会におけるイノベーションを促進する目的があります。九州経済フォーラムの石原会長とそのチームのリーダーシップに敬意を表し、感謝の意を伝えます。

また、今回の会議では半導体、ESG、バイオメディカルなど幅広いテーマが取り上げられ、基調講演やパネルディスカッションを通じて国際的な協力を推進します。この場を通じて、参加者が知識や経験を共有し、人脈を築き、未来を形作る変革的なパートナーシップを構築することを願っています。

3. 10月16日(水) 開催内容

(3) 半導体産業のESG

TSMC シニア・バイス・プレジデント / Lora Ho 氏



TSMCは1987年に設立された世界最大の半導体受託製造会社で、最先端の技術で製造業を革新し、環境・社会・ガバナンス(ESG)の分野でも積極的に取り組んでいます。環境面ではグリーンエネルギーの使用目標を前倒しし、ゼロエミッションや廃棄物削減に注力しており、サプライチェーンでは、持続可能な発展を目指し、リサイクル可能な資材の導入を推進しています。

人材育成では多様性を尊重し、オンライン教育や若年層への教育プログラムを展開しています。地域社会への貢献としては、災害支援や障害者支援を行い、循環型経済の実現にも尽力しています。これらの取り組みを通じ、TSMCは世界中のパートナーと協力しながら、持続可能な未来を創造し続けています。

JASM 取締役社長 / 堀田 祐一 氏



九州と台湾の技術協力の進展について、特に熊本におけるTSMCの半導体工場プロジェクトについてお話しします。このプロジェクトでは、地域の支援を受けながら、再生可能エネルギーの活用や水資源保護、リサイクルの推進を行い、持続可能な社会を目指しています。さらに、九州大学や熊本大学との連携を通じて、若い人材の育成にも注力しています。

また、地域社会との協力や文化活動を通じ、地元への貢献を深めています。このプロジェクトを通じて、日本と台湾の協力を一層強化し、半導体産業を支える基盤を構築することを目指しています。今後も地域に根差した活動を進め、日本全体に貢献できる企業として成長していきたいと考えています。

(4) 半導体のサプライチェーン発展と課題

アジア太平洋学術産業連携協会 理事長 / Chen-en Ko 氏 (モデレーター)



私は半導体産業の複雑なエコシステムと長いサプライチェーンを踏まえ、日本と台湾が協力する重要性について考えていきたいと思えます。台湾のファウンドリー企業が海外展開することで、多国間のつながりが広がる可能性があります。また、日本の高いESG基準に触発され、TSMCやJASMがその基準を実行し、持続可能な取り組みを推進しています。日本企業との協力は相乗効果を生み出し、強力なパートナーシップを構築できると確信しています。特にTSMCの熊本での第2工場建設は、この連携の象徴的な成果であり、さらに強固なエコシステムの形成につながるでしょう。

最終的に、この協力が日本、台湾、そして世界の発展に貢献することを信じています。

中華経済研究院 副院長 / Jiann-Chyuan Wang 氏



台湾と日本のIC産業における協力の重要性について、地政学的視点からお話しさせていただきます。台湾はファウンドリーやパッケージングで世界的なシェアを持ち、一方で日本は装置と素材の分野で強みを発揮しています。この補完関係を活かし、両国の協力は新たな成長機会を提供します。しかし、台湾は水や電力、労働力といった資源の不足や、地政学的リスクに直面しており、日本の競争力もかつてに比べ低下しています。その中で、九州における台湾企業の進出や中小企業の事業継承の取り組みは、具体的な連携モデルとして有望です。

また、両国のスタートアップや技術革新を相互に活用することで、レジリエントなサプライチェーンや新たな応用技術を生み出すことが可能です。私は、この協力が地域経済の成長を促し、新たな未来を切り開く鍵になると確信しています。

3. 10月16日(水) 開催内容

Topco Group 会長代行兼チーフ・サステナビリティ・オフィサー / Robert Lai 氏



私はトプコグループの会長代行兼CSOとして、台湾と日本の将来的な連携について取り組んできました。当社は半導体サプライチェーン全体にわたる製品やサービスを提供し、特に日本企業との連携を通じて技術革新を進めています。日本は精密材料、台湾はファウンドリーとパッケージで強みを持つため、両国の協力は補完的であり、競争力強化に貢献します。また、人材育成にも注力し、奨学金やインターンシップを通じて次世代の育成を進めています。さらに、九州と台湾の地理的・文化的近さを活かし、連携を強化することで経済成長を目指します。5G、AI、IoT、EVなど次世代分野における共同研究とエコシステムの構築を通じ、両国の持続的発展を推進していきたいと考えています。

(5) 九州・台湾における中小企業の連携と発展

Aves Capital Group 常務取締役 / Susan Ko 氏 (モデレーター)



私は台湾と日本の中小企業(SME)の成長と課題、希望についてお話ししたいと思います。私の研究では、成功の鍵となる4つの重要な要素を挙げています。1つ目は、日本と台湾がそれぞれの強みを活かして製造やテクノロジー、持続可能性の分野で協力し、イノベーションを推進することです。2つ目は、SME同士のパートナーシップを強化し、主要なステークホルダーが国境を越えた連携を支援する政策を作る必要があります。3つ目は、信頼を築くため、透明性を大切に相互理解を進め、お互いに紹介しあうことです。最後に、サステナビリティを戦略に組み込み、根気強く国際関係を構築することで長期的な成功が可能となります。

本多機工株式会社 代表取締役社長 / 龍造寺 健介 氏



九州を拠点とした本多機工の4代目社長として、産業用ポンプを通じてグローバル展開に取り組んでいます。日本の高度な技術を武器に、65か国でビジネスを展開し、外国人材を積極的に採用することで、海外市場のニーズにえています。九州はアジアの玄関口であり、その地理的優位性を活かして地域の活性化とグローバル化を推進しています。一方で、九州企業の英語力や迅速な意思決定能力の不足が課題であり、台湾企業の柔軟性やスピード感から学ぶべき点が多いと感じています。台湾と九州が協力し、多文化共生や語学力の向上を図ることで、強固なパートナーシップを築き、地域経済の発展を目指したいと考えています。

チャン・タイプ・インダストリアル株式会社 副社長 / Annie Chang 氏



当社は台湾を拠点にパワーツール事業を展開する企業であり、2003年にIPOを果たしました。垂直統合型のビジネスモデルでサプライチェーンを効率化し、特に2011年にはアメリカの歴史ある企業である「デルタ」を買収することで、グローバル展開を加速させました。現在、世界的なホームセンター企業を含む多くの顧客に製品を提供しています。また、事業継承に向けた次世代の育成や他企業との共同活動を通じ、課題解決やリソースの共有を図っています。こうした取り組みにより、持続可能でより良い未来を目指したいと考えています。本日は、皆様と新たな連携を築くことを期待しています。

Gomore Inc Group 社長CEO / Hsin-Fu Kuo 氏



私は日本人の祖母を持つ家庭に生まれ、日本と台湾のつながりの中で育ちました。本日は私が経営するAI企業「Gomore」についてご紹介します。この会社は、AI技術をスポーツや医療分野に応用し、フィットネスやウェルネスの個別化されたサービスを提供しています。特に、AIを活用したコーチングアルゴリズムやデバイス開発に注力しており、心身のバランスを整える総合的なソリューションを提供しています。創業以来、オリンピックや大学病院との連携を深め、特許取得や世界的な展開を進めてきました。成功の鍵は、イノベーション、チームワーク、起業家精神です。日本と台湾の文化のシナジーを活かし、グローバルな成長を目指しています。

3. 10月16日(水) 開催内容

(6) 福岡県産業政策発信

福岡県知事 / 服部 誠太郎 氏



私は福岡県知事として、九州における半導体産業と自動車産業の振興に取り組んでいます。熊本県へのTSMC進出を皮切りに、福岡県内でも北九州市に台湾の半導体企業が進出する予定であり、これにより九州が「シリコンアイランド」として発展を続けています。また、トヨタと日産が福岡でEV用バッテリー工場を建設する計画も進行中で、これらのプロジェクトは九州を世界的な半導体・自動車産業の拠点へと押し上げると考えています。さらに、人材育成や研究開発を支える施設を整備し、企業誘致のための支援策を強化しています。私たちは、九州全体を世界有数の産業集積地として発展させるため、企業や地域の皆様と共に前進していきたいと考えております。

(7) 2050ネットゼロエミッションに向けたワイドバンドギャップ・ウルトラワイドバンドギャップ半導体による未来エレクトロニクスの社会実装加速

名古屋大学 教授 / 天野 浩 氏(ノーベル物理学賞受賞者)



本日は半導体「筋肉」材料である窒化ガリウムを中心に、カーボンニュートラルへの貢献についてお話しします。窒化ガリウムやSiCは、エネルギー変換効率を大幅に向上させ、太陽光発電や電気自動車(EV)の性能を飛躍的に向上させる可能性を秘めています。また、私たちは独自の技術で世界最短波長の半導体レーザーを開発し、効率的なエネルギー活用を目指しています。さらに、次世代ディスプレイやスマートインターフェースの研究も進めています。これらの取り組みを通じて、2050年のネットゼロエミッション実現を目標としています。今後も九州や台湾の皆様とも連携を深めていきたいと考えておりますので、私の研究にご関心がある方と、ぜひ連携していきたいと思っております。

(8) 産学連携での戦略的人材育成

九州大学 総長 / 石橋 達朗 氏



私は九州大学で、社会課題解決を目指し、自治体や産業界など多様なステークホルダーとの連携を推進しています。2030年を見据えたビジョンに基づき、脱炭素や医療、環境、半導体分野を重点的に研究し、成果の社会実装を加速するため、「九大OIP株式会社」を設立しました。また、半導体分野ではTSMCとの連携や九州半導体人材育成コンソーシアムを通じ、人材育成や国際協力を進めています。さらに、九州・沖縄地域や台湾の大学との連携を強化し、地域を超えたイノベーションの創出を目指しています。これらの取り組みを通じて、九州大学が社会変革を牽引する存在となるよう全力で取り組んでいます。

九州大学 副学長 / 白谷 正治 氏



私は九州大学で副学長として、半導体分野の人材育成と産学連携を推進しています。世界的な半導体需要の拡大に応えるため、日本では今後10年間で4万人の新たな半導体人材が必要とされています。これを受け、九州大学では半導体技術者だけでなく、社会変革を担うアプリケーション指向の人材を育成する「価値創造型半導体人材育成センター」を設立しました。また、台湾のTSMCや国内外の大学・企業との連携を通じて、教育プログラムの充実やグローバルな人材交流を進めています。さらに、九州を拠点とするサイエンスパークの設立を目指し、研究成果の社会実装と地域産業の発展に貢献していきます。

3. 10月16日(水) 開催内容

(9) 宇宙ビジネスを九州の新たな成長エンジンに

株式会社Fusic 取締役副社長 / 浜崎 陽一郎 氏 (モデレーター)



モデレーターを務めます、株式会社Fusicの浜崎です。今日は、宇宙という壮大なテーマと九州というローカルな話題を行き来しながら、九州の成長エンジンとしての宇宙ビジネスについて議論を進めたいと思います。まず、宇宙産業がどのような構造を持ち、それが九州の発展にどのように結びつくのかを明らかにしていきます。

本日は、多くの話題を共有しながら、宇宙と地域の可能性を深掘りしていきたいと思えます。

JAXA 宇宙戦略基金事業部 次長 / 上村 俊作 氏



私はJAXAで新事業促進部に所属し、宇宙産業の成長と産学官の連携促進に取り組んでいます。宇宙産業は世界規模で拡大し、2040年には約140兆円規模に達する見込みです。日本では政府が宇宙戦略基金を設立し、スタートアップや中小企業、大企業を支援しており、宇宙関連予算も年々拡大しています。私はこうしたエコシステムの中で、ロケットや衛星打ち上げからデータ活用、月面開発、宇宙旅行に至るまで、多岐にわたるビジネスの発展を目指しています。また、200社以上の企業が参画するJAXAの共創パートナーシップを通じて、異業種企業とも協力し、新たな宇宙産業の可能性を広げることに注力しています。

株式会社インフォステラ 代表取締役CEO / 倉原 直美 氏



私は株式会社インフォステラの代表として、人工衛星の地上通信に特化した「ステラステーション」というプラットフォームを提供しています。このサービスは、人工衛星の運用者が弊社のシステムに接続することで、世界中のパラボラアンテナを効率的に利用できる環境を提供します。これにより、アンテナ設置や個別調整のコストや手間を削減し、衛星データの地上への伝送を簡素化しています。また、宇宙産業の急速な成長を背景に、半導体技術の進化や小型衛星の普及を追い風に、私は宇宙機関ではなく民間の立場で、より身近で実用的な宇宙利用を目指しています。国際的なメンバーと共に、拡大する宇宙ビジネス市場で新たな価値を創造することに注力しています。

株式会社QPS研究所 ファウンダー / 八坂 哲雄 氏



私は大学の研究者として宇宙開発に携わり、その後、企業で人工衛星の開発に20年間従事し、九州大学では学生による小型衛星プロジェクトを推進しました。現在、人工衛星を活用したサービスを提供する「QPS研究所」を設立し、小型レーダー衛星を用いて高精度な地球観測データを提供しています。このデータは災害対応、インフラ管理、自動運転支援など多岐にわたり活用されます。地域密着型の製造ネットワークを活用し、九州に宇宙産業を根付かせることを目指し、地域企業と連携して年間10基の衛星製造を目標にしています。地域の支援を受け、九州から世界に誇れる技術とサービスを創出することを使命としています。

3. 10月16日(水) 開催内容

(10) 高齢化とME-BYO

スタンフォード大学 SLDDDRS 所長 / 西村 俊彦 氏 (モデレーター)



私は本日のテーマである「未病」について議論し、高齢化社会における健康寿命の延伸を目指します。日本と台湾は高齢化が進んでおり、この課題解決のために「未病」の考え方を4つの領域(歩行・認知・ストレス・体全体)に分けて考えています。各分野の専門家が参加しており、歩行の重要性について慶應大学の名倉教授、認知症予防について福岡市の笠井部長とたろうクリニックの内田理事長、ストレスの可視化と管理について慶應大学の満倉教授が発表します。また、東洋医学と再生医療を融合した治療法の成功事例を、大口先生が紹介します。最終的には、未病を可視化し、予防と改善を実現する具体的な方法について議論し、新たな健康モデルを構築することを目指しています。

Lee's Medical Corporation Chief Superintendent / Hsu-Tung Lee 氏



私は台湾が「未病」の概念を活用して健康と病気の間をどのように管理しているかを学びました。「未病」とは、病気の発症前に治療を行い、予防的に健康を維持することを目指す考え方です。台湾では、この概念を基にした「健康台湾計画」が推進され、人々の健康を向上させるとともに国の発展を目指しています。具体的には、医療技術や遺伝子データ解析を活用して、疾患の早期発見や予測が可能となり、これにより認知症や脳卒中などのリスクを減らす取り組みが進められています。また、医療産業を発展させることで、個別化医療や予防医療の強化も図られています。この戦略は、台湾が超高齢化社会に向き合いながらも、世界的に健康をリードする国を目指すものです。

慶應義塾大学 教授 / 満倉 靖恵 氏



私は心と体の健康を測る「バロメーター」と「バイオマーカー」の違いについて説明します。バロメーターは個人の状態を簡易に把握するもので、睡眠トラッカーなどが該当しますが、医療基準には沿っておらず正確性に欠けます。一方、バイオマーカーは体内の具体的な変化を基に不調を予測し、医療や健康管理に応用可能です。私たちはMCI(軽度認知障害)の簡易検出装置や、心拍データを用いた正確な睡眠評価モデルを開発し、これらを特許化しました。これまでの研究では、感情やホルモンの可視化、うつ病の重症度評価などを実現し、多くの時間を費やしてきましたが、健康科学の進歩に向けて今後も挑戦を続けていきます。

医療法人すずらん会たろうクリニック 理事長・院長 / 内田 直樹 氏



私は認知症専門医として、福岡の在宅医療を支えるクリニックを運営しています。本講演では「認知症とME-BYO」をテーマに、認知症を防ぐ方法として老化の遅延が重要であることを説明します。老化の速度は遺伝や生活習慣などに影響され、歩行や会話など健康的な生活がその進行を遅らせる鍵です。さらに、認知症は原因疾患が70種類以上ある状態であり、その中でアルツハイマー型が多くを占めます。しかし、認知症は単に認知機能の変化ではなく、生活の障害に注目すべきです。私は「認知症フレンドリーテック」というプロジェクトでテクノロジーを活用し、生活の不便を解消する取り組みを進めています。これにより、認知症の人々の暮らしやすさを向上させ、スタートアップ企業との連携も目指しています。今後も地域や国際的な連携を通じて活動を広げていきたいと考えています。

3. 10月16日(水) 開催内容

福岡市 福祉局 ユマニチュード推進部 部長 / 笠井 浩一 氏



私は福岡市の取り組みとして認知症問題にどう向き合っているかを説明いたします。福岡市は2040年まで人口が増え続ける一方で高齢化が進み、認知症患者数が急増すると予測されています。そこで、市は「認知症になっても自分らしく暮らせる街」を目指し、2018年に「認知フレンドリーシティプロジェクト」を開始しました。具体的には、認知症の人に優しいデザインの公共施設整備や、ケア技法「ユマニチュード」の導入、市民向け講座の実施など、ハード面・ソフト面の施策を展開しています。また、企業や地域住民と連携し、認知症の人も社会の一員として活躍できる環境を整備。さらに、認知症の人が働ける施設「認知症フレンドリーセンター」も設置しました。これにより、社会全体で認知症に対する理解と支援を深めています。

株式会社MPJ 会長 / 大口 貴弘 氏



私は東洋医学と最新医療技術を組み合わせた「ハイブリッドセラピー」の可能性について講演を行います。鍼灸師や柔道整復師として国内外で活動し、スポーツ選手や一般患者に施術を行っています。その中で、針治療と幹細胞治療を組み合わせた独自の方法を開発し、不安神経症や脳出血後のリハビリに効果を上げました。一例では、家から出られなかったパニック障害の社長が5回の施術で症状を克服し、社会復帰を果たしました。また、脳出血による半身麻痺の患者が施術後、日常生活を取り戻しました。この療法は、未病の概念に基づき、身体や精神の不調を早期に改善することを目的としています。身体的症状のみならず、骨格や神経領域の調整によって健康を目指すハイブリッドセラピーの意義を提案しました。

慶應義塾大学 整形外科臨床 特任教授 / 名倉 武雄 氏



私は慶應大学で長年、膝の横ぶれ(ラテラルスラスト)の研究を続け、現在はスタートアップで簡易的に膝の状態を測定できるデバイスを開発しています。膝の痛みは日本国内で2500万人以上が抱える問題であり、特に女性や高齢者に多いです。従来のレントゲン診断では早期の膝疾患の判別が難しいため、私のデバイスはセンサーとAI技術を活用し、膝の横ぶれを短時間で数値化することで、早期介入を可能にします。このデバイスは全国40施設で利用され、未病対策やリハビリ、健康診断に貢献しています。将来的には、膝の数値を血圧や血糖値のように標準化し、国内外で普及させることで、より多くの人々の健康を支えることを目指しています。

神奈川県知事(ビデオメッセージ) / 黒岩 祐治 氏



私は神奈川県知事として、高齢化に伴う課題に対処するため「ME-BYO」の概念を提唱し、健康と病気の間にある連続的な状態を改善する取り組みを進めています。未病とは、どの段階でも健康状態を少しでも向上させることで、食事、運動、社会参加が重要であると考えています。この考えを基に、最先端技術と融合した「ヘルスケア・ニューフロンティア政策」を推進し、世界中のネットワークとも連携しています。また、未病状態を数値化する「未病インデックス」をWHOや東京大学と共同開発し、個人が自身の未病状態を理解し行動を変えるきっかけを提供しています。究極の目標は、100歳になっても笑顔で暮らせる「バイブラント命」の実現であり、このコンセプトを世界に発信しています。

4. 10月17日(木) 開催内容

時間	セッション名	登壇者所属・氏名
9:00	オープニング	一般社団法人九州経済連合会 会長 倉富 純男
9:10	宇宙医療イニシアティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンフォード大学 SLDDDRS所長 西村 俊彦 ・東北大学 東北メディカル・メガバンク機構長 山本 雅之 ・国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事 安井 元昭 ・株式会社ACCESS 取締役 執行役員CTO 植松 理昌 ・株式会社minsora 代表取締役社長 高山 久信 ・合同会社ツクル 代表社員 三宅 創太
10:45	モノ、コト、現象のモデリング～ 相手を知ることから制御がはじまる～	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾大学 名誉教授 足立 修一 ・慶應義塾大学 教授 満倉 靖恵
11:45	九州の半導体 サプライチェーンの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・国立陽明交通大学 教授 Jeff Chen ・KORVVA Links Senior Advisor Vincent Lin ・国立台湾大学 教授 Konrad Young ・野村インターナショナル(香港)リミテッド 常務取締役 Shine Lin

4. 10月17日(木) 開催内容

時間	セッション名	登壇者所属・氏名
14:00	日・台を超えた ベンチャー投資 :機会と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ 取締役副社長 山口 泰久 ・CDIB capital Innovation Accelerator社長 Ryan Kuo ・Industrial Technology Investment Corporation CEO Michel Chu
15:00	グローバル経営の鍵となる ファイナンス人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・Sozo Ventures シニア・マネージング・ディレクター 中村 幸一郎 ・立命館アジア太平洋大学 教授 藤田 正典 ・学校法人立命館 総務部長 財務部長 総合企画部長 酒井 克也
16:25	Silicon Sea Belt 2.0を 目指して	九州大学 名誉教授 安浦 寛人
17:05	クロージング	<ul style="list-style-type: none"> ・九州経済フォーラム 会長 石原 進 ・アジア太平洋学術産業連携協会 理事長 Chen-En Ko ・スタンフォード大学 SLDDDRS所長 西村 俊彦

4. 10月17日(木) 開催内容

(1) 開会挨拶

一般社団法人九州経済連合会 会長 / 倉富 純男 氏



本カンファレンスの2日目にあたり、九州の取り組みについてご紹介します。九州は現在、日本で最も活気ある地域であり、TSMCの熊本進出を契機に、半導体産業が急成長しています。投資額は既に6兆円を超え、今後10年間で20兆円の経済効果が期待されています。九州地域戦略会議では「シリコンアイランド九州」のグランドデザインを採択し、九州を半導体ビジネスの中核にすることを目指しています。また、九州大学と連携したベンチャー支援や、航空宇宙産業の推進、衛星データ活用による課題解決など、多様な取り組みを行っています。さらに、台湾との経済交流も深化させ、地域発展を促進しています。本カンファレンスが九州と台湾、日本全体の未来を切り開く契機となることを願います。

(2) 宇宙医療イニシアティブ

スタンフォード大学 SLDDRS 所長 / 西村 俊彦 氏 (モデレーター)



第2回九州・台湾クリエイティブカンファレンス2日目のセッションは「宇宙医療イニシアティブ」から進行していきます。昨日は宇宙産業が九州の成長エンジンとして新生シリコンアイランドの核となる可能性について共有しました。今日は、宇宙産業における具体的なテーマを3部構成で進めます。まず、安井先生が宇宙総論を語り、minsora代表の高山さんが宇宙との50年の関わりを紹介します。次に、山本雅之先生が「マウスから医療を考える」という視点で宇宙医学について話します。最後に、植松さん、三宅さんが宇宙各論として宇宙産業の新たなビジネスアイデアを共有します。

国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事 / 安井 元昭 氏



私は情報通信研究機構(NICT)で研究を行っています。NICTは、ICT分野の基礎研究から産業応用まで幅広い取り組みを行う独立行政法人です。特に宇宙分野では、通信やリモートセンシング、安全な量子通信技術の開発、気象衛星による観測、宇宙天気予報などに注力しています。たとえば、高速・大容量通信技術を実証する衛星や、光通信技術、気象予測改善のためのリモートセンシング衛星、宇宙天気予測システムなどの研究成果を紹介しました。また、産業界や大学との連携、国際協力を通じて、未来の技術開発や基礎研究にも取り組んでいます。私たちは設備のオープン利用を進め、社会全体の活力向上を目指しています。

株式会社minsora 代表取締役社長 / 高山 久信 氏



私は「宇宙ビジネスナビゲーター」として活動しており、日本初の肩書きで宇宙関連の情報や技術をナビゲートしています。50年にわたる経験を生かし、国際宇宙ステーション(ISS)や宇宙輸送システムなど、多くのプロジェクトに携わってきました。ISSは微小重力環境を活用した研究開発の場であり、特に医学分野では基礎研究が活発です。今後は民間主導の商業宇宙ステーションが中心となり、医療や製薬など実用的な利用が進む見通しです。日本でも宇宙産業の拡大が進み、九州を拠点に新たな事業が展開されています。宇宙空間での生活が現実となる未来には、健康や医療が重要なテーマになると考えています。

株式会社ACCESS 取締役 執行役員 CTO / 植松 理昌 氏



私は通信技術に基づく社会実装に長年携わってきました。モバイル通信やブロードバンド、スマートテレビなどのサービスを開発し、技術を社会に届けてきた経験から、通信技術の進化が産業を加速させる重要性を認識しています。現在注目されるのは光と無線技術で、これにより高速かつ低消費電力の通信が可能になります。特に光半導体や光配線の導入は効率を飛躍的に向上させ、インターネットの負荷や電力問題を解決する可能性を秘めています。また、スターリンクに代表される衛星通信技術は個人利用を可能にし、産業変革を促進しています。日本と台湾の協力を通じ、光と無線技術を基盤に新しい通信ネットワーク構築を進めており、この技術は宇宙開発にも寄与すると考えています。

4. 10月17日(木) 開催内容

東北大学 東北メディカル・メガバンク 機構長 / 山本 雅之 氏



私は宇宙研究に携わり、宇宙環境が人体に及ぼす影響を探究しています。近年、日本がアメリカに次いで月面に人を送り込む計画が進んでいますが、それに際して宇宙医学が重要となります。無重力や宇宙放射線によるストレスが体に与える影響を分析するため、私は長年にわたり「NRF2システム」を研究してきました。このシステムは酸化ストレスに対抗し、体を保護する重要な役割を担っています。2018年には国際宇宙ステーションでマウスを用いた実験を実施しました。その結果、宇宙環境が骨密度や筋肉量の急激な減少を引き起こすことが明らかになり、ビタミンDの生成低下や代謝変化も確認されました。さらに、NRF2が宇宙での体の適応応答に深く関与していることが判明しました。これらの成果を基に、宇宙医学の新しい可能性を開拓し、将来的に人類の宇宙進出に貢献することを目指しています。

合同会社 ツクル 代表社員 / 三宅 創太 氏



私は新しい宇宙産業のプラットフォーム構築に取り組んでいます。かつて月面ローバーの開発を行う企業のCOOを務めており、現在は仲間とともに新しいビジネスモデルを創造しています。その一環として、月面で得られる資源を活用して現地生産を行う構想を進めています。これはNASAのアルテミス計画とも連携し、無人ロボットの開発や、月の地下空間に工場を設置するプロジェクトに繋がっています。また、低軌道宇宙港の設置や、小惑星資源の利用も視野に入れています。さらに、サービスロボットの開発を推進しており、介護、農業、建設など地上の分野でも活用しつつ、最終的には宇宙での利用を目指しています。これらの取り組みを通じ、循環型社会の実現と、新たな経済圏の創出を目指しています。私たちは挑戦を続け、多様な可能性を追求しています。

(3) モノ、コト、現象のモデリング ～相手を知ることから制御がはじまる～

慶應義塾大学 教授 / 満倉 靖恵 氏 (モデレーター)



私はAIの進化と課題についてお話ししたいと思います。ビッグデータには病院ごとに基準が異なる検診データや画像データなどが含まれていますが、これらはノイズやサンプリングの不一致が多く、AIに学習させる際に課題があります。しかし、AIは画像処理や言語認識で人間を超える精度を達成しており、その進化に驚かされます。一方で、AIには臨機応変な対応が苦手という弱点があり、医療分野での利用には慎重さが求められます。感情の可視化などでAIを活用するため学びを深めています。AIは可能性に満ちていますが、適切な使い方と倫理的課題への配慮が重要だと感じています。

慶應義塾大学 名誉教授 / 足立 修一 氏



1986年に博士課程を修了後、東芝で人工衛星の姿勢制御に携わり、航空宇宙分野や民間企業、海外での研究を経て、現在は慶應の名誉教授として活動しています。専門は「制御」「モデル」「データ」で、例えば二足歩行ロボットの制御や自動車、宇宙探査、音響工学など幅広いテーマを扱っています。制御理論は多くの分野に応用され、直感的に理解しづらいですが、本質は対象を分析し、効率的に動かす技術です。また、データ駆動型社会の実現が重要課題であり、AIや複雑系の研究がその鍵を握っています。科学の歴史では、ガリレオやニュートンがシンプルなモデルを用いて複雑な現象を解明しました。私は研究を通じて、技術や知識を社会に役立てることを目指しています。

4. 10月17日(木) 開催内容

(4) 九州の半導体サプライチェーンの振興

国立陽明交通大学 教授 / Jeff Chen 氏 (モデレーター)



私は台湾や日本、スタンフォード大学などで教鞭をとり、多くのプロジェクトに関わってきました。本日は、TSMCのR&Dを長年支えたYoung教授や、HPやメディアテックで供給網管理を革新してきたLin教授とともに、その知見を共有します。台湾と日本のサプライチェーンの特徴を比較し、日本では主に垂直統合型の供給網が主流である一方、台湾は水平分業型で柔軟性と競争力を高めてきました。この違いが、両地域に新たな連携の可能性を生むと考えています。特に、TSMCが日本での現地調達率を引き上げる計画は、デジタルトランスフォーメーションの重要性を示しており、多くの中小企業の競争力向上が求められています。これには巨額の初期投資と技術革新が必要ですが、私たちは協力を通じてこれを実現する意欲を持っています。本日、この議論を通じて未来の可能性を探りたいと思います。

国立台湾大学 教授 / Konrad Young 氏



台湾の半導体産業の成功は、適切な時期と環境、人々によるもので、特に海外での経験を積んだ技術者たちが台湾へ戻り、基盤を築きました。TSMCの成功は、顧客ニーズに応える文化や、イノベーションではなく、信頼と技術基盤を提供するモデルにあります。しかし、地政学的リスクや台湾の労働力不足、若い世代のモチベーション低下が課題です。日本の半導体産業再生には、過去の成功に学び、分散した地域構造や過剰品質のコストを見直す必要があります。また、デジタル文化やソフトウェア重視が鍵です。TSMCの日本進出は、供給網の強化と学習の機会となり、日本の半導体産業の復活の契機になることが予想されます。産業再興には若者を惹きつける上昇傾向が不可欠であり、産業全体の連携とグローバル視点が求められます。

KORVVA Links Senior Advisor / Vincent Lin 氏



私は次世代のサプライチェーン管理システムの設計に取り組んでいます。現在のシステムは25~30年前の技術を基盤としており、サプライチェーンの複雑化に対応できていません。従来の階層型構造ではなく、多層的かつ動的な構造が求められていますが、既存システムの大規模改修はコストや運用面で困難です。しかし、技術革新の好機を活かし、次の20年を見据えた新しいシステムを構築することが可能です。このシステム設計では、プロセスとITの成熟度を同時に高め、特に透明性を重視します。透明性を確保することで、顧客が進捗や成果物を把握しやすくなり、信頼性の向上にもつながります。これにより、次世代のデジタルサプライチェーンが実現できると確信しています。

野村インターナショナル(香港)リミテッド 常務取締役 / Shine Lin 氏



私は日本のトップ企業で16年間勤務し、そこでの経験を誇りに感じています。私たちは金融サービス提供者としてだけでなく、グローバルクライアントの課題解決を支えるパートナーでもあります。本日は、サプライチェーンにおけるリスク管理の重要性についてお話しします。地震、火山、パンデミックなど、従来の保険だけでは対応が難しいリスクに対して、私たちは地震デリバティブという新たな金融契約を提供しています。この仕組みでは、損害評価ではなく地震規模を基準に迅速な対応が可能です。さらに、台風や洪水、サイバー攻撃、ストライキなど、他のリスクにも柔軟に対応しています。クライアントのニーズに応じたソリューションを提案し、効率性とレジリエンスを両立させることで、グローバル競争を共に乗り越えていきたいと思っています。

4. 10月17日(木) 開催内容

(5) 日・台を超えたベンチャー投資：機会と課題

Industrial Techonology Investment Corporation CEO / Michel Chu 氏 (モデレーター)



本セッションで日本・台湾を超えた投資とイノベーションエコシステムについて議論しました。日本の九州地域ではTSMCの工場計画を契機に、半導体産業への関心が高まっていますが、スタートアップ、特に設計分野の企業が不足しており、協力体制が必要です。また、宇宙産業や電気自動車分野でも活発で、特に「EVモーターズ・ジャパン」のような競争力のある企業が注目されています。台湾では、スタートアップの50%が研究開発型で、日本より少ないことが課題ですが、日本の素材供給力との連携により、両国の発展を加速できます。さらに、台湾のAI技術が日本の自動車産業を支援する可能性も議論しました。一方、文化や言語の違い、信頼関係の構築が課題ですが、それらを克服することで、両国のスタートアップがグローバル市場で成功する道が拓けると考えています。

株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ 取締役副社長 / 山口 泰久 氏



私は現在、ベンチャーキャピタル「FFGベンチャービジネスパートナーズ」で活動しており、これまで100社以上に投資し、そのうち約20社が上場しました。ディープテック分野を中心に、宇宙、半導体、創薬、AIなど多様な分野に取り組んでいます。以前は日本政策投資銀行で社内ベンチャーを立ち上げ、現在は福岡銀行とともに8つのファンドを運営。九州の大学発スタートアップを支援する「振興会議」にも関与し、大学と連携してギャップ資金の提供やエコシステム構築を推進中です。また、地元企業とのオープンイノベーションを促進し、スタートアップ育成のためのネットワークやイベントも展開しています。私の目標は、九州を中心としたスタートアップエコシステムのさらなる発展に貢献することです。

CDIB capital Innovation Accelerator 社長 / Ryan Kuo 氏



私は台湾の大手ベンチャーキャピタルであるCDIBに所属しており、1959年の設立以来、2,000社以上に投資してきました。特に、1980年代のICT企業や1990年代の半導体産業への投資で、多くの企業の成長を支援しました。また、2000年以降は金融持株会社へと転換し、銀行、証券、保険などを統合したワンストップ金融サービスを提供しています。現在は台湾や日本のスタートアップを中心に投資を行い、地域間のビジネス拡大を支援する「クロスボーダーイノベーションファンド」を運営しています。例えば、台湾企業の日本進出や日本企業の東南アジア進出を支援する戦略を取っています。また、エコシステム型投資戦略を採用し、関連企業同士の協力を促進しています。さらに、アクセラレーターやオープンイノベーションイベントを開催し、大企業とスタートアップの連携を促進しています。これらの活動を通じて、投資先企業にネットワークや付加価値を提供し、持続可能な成長を目指しています。

4. 10月17日(木) 開催内容

(6) グローバル経営の鍵となるファイナンス人財の育成

Sozo Ventures シニア・マネージング・ディレクター / 中村 幸一郎 氏 (モデレーター)



私はシリコンバレーを拠点とするSozoベンチャーズを運営しています。私たちは、スタートアップが米国市場で成長し、世界に挑戦する際に、日本を中心とした国際展開を支援するグローバルエクспанションの専門VCです。TwitterやSquare、Zoomなどへの投資実績を重ね、グローバルスタンダードの獲得を目指してきました。さらに、教育を通じてイノベーションを促進する一般社団法人11KSを設立。これは、日本やアジアの産業をグローバルリーダーと結びつけ、しがらみから脱出する新たなリーダーを育成する目的で活動しています。加えて、スタートアップ投資の国際標準化や評価制度の整備が必要だと感じています。特に、日本においては、公正な会計基準や投資環境の向上が国際協調投資の進展に不可欠であり、私たちはこれらの課題に取り組みながら、スタートアップの成功を支援しています。

立命館アジア太平洋大学 教授 / 藤田 正典 氏



私は立命館アジア太平洋大学で教育と研究に従事しており、元実務家として35年以上の経験を持っています。日本のスタートアップエコシステムの課題について、中村さんのお話と関連する内容を共有しました。日本のスタートアップ投資は、シリコンバレーなどのグローバルな基準に比べ遅れており、評価指標のグローバル化や知識の国際的な共有が必要です。エコシステム形成には、優れた投資家・起業家の育成、合理的でエビデンスに基づく評価手法の導入が不可欠です。私たちは教育セミナーや研究を通じて、米国の成功事例を参考にしながら、日本のスタートアップが世界で成長するための基盤を整えようとしています。データ共有やグローバルな知識吸収を進め、日本独自の強みを活かしつつ国際競争力を高めることが目標です。

学校法人立命館 総務部長 財務部長 総合企画部長 / 酒井 克也 氏



私は立命館大学に所属し、資産運用を中心とする業務を担当しています。立命館は京都と大分にキャンパスを持ち、教育・研究機関として活動しながら、約1500億円の運用資産を管理しています。2002年から資産運用を開始し、リーマンショックやアベノミクスを経てポートフォリオを拡充しました。現在は預金、債券、不動産、オルタナティブ投資などに分散し、30億円規模の収益を生み出しています。特に近年、スタートアップ関連投資を検討し、長期運用資金の特性を活かした非流動資産の導入を進めています。内部スタッフによる専門性の向上と他業務との兼務を両立させることで、教育や研究への還元を目指しています。

(7) Silicon Sea Belt 2.0を目指して

九州大学 名誉教授 / 安浦 寛人 氏



私は九州大学で25年間勤め、その後は企業経営に携わり、日本や台湾のIPO支援を行ってきました。現在はベンチャーキャピタルの投資委員として、組織作りの重要性を学んでいます。台湾と九州は面積が近いものの、半導体産業では台湾が圧倒的に優位です。1990年代以降、日本は半導体設計を軽視し、水平分業に乗り遅れた結果、台湾に追い抜かれました。特にTSMCは製造に特化し、高い稼働率で成功を収めました。一方、日本は素材や製造装置分野で強みを持ちますが、設計や製造の分野では遅れを取っています。今後、日本が最先端技術で追いつくには、設計や製造技術への投資と戦略転換が急務です。

4. 10月17日(木) 開催内容

(8) クロージング

九州経済フォーラム 会長 / 石原進氏



私は今回の会議を通じて、半導体産業の重要性を改めて実感しました。前回は3日間の議論で密度が濃かったですが、今回は2日間と短いながらも非常に多岐にわたる内容でした。専門家の講演から宇宙や健康分野の可能性も知ることができ、大いに勉強させていただきました。特に、安浦先生の締めめの講演が印象的で、21世紀における半導体産業の戦略的重要性を再認識しました。

現在、日本の半導体産業は厳しい状況にありますが、台湾のTSMCとの連携を通じて復活の可能性を模索すべきです。台湾の若者たちの意識の高さやダイバーシティも参考になりました。日本は世界に通用する若者を育て、九州を中心とした産業クラスターを形成することで、シリコンアイランドの復活を目指すべきです。学術機関や産業界が一体となり、未来を切り開く決意を新たにしました。

アジア太平洋学術産業連携協会 理事長 / Chen-en Ko 氏



私は東太平洋沿岸をつなぐ「シリコンシーベルト」を構築するビジョンに共感し、九州と台湾が互いに協力してシリコンアイランドを実現できると確信しています。この2日間、多くの講演や議論を通じて、成功には技術だけでなく、人間の決意とリーダーシップが不可欠であると改めて感じました。台湾でのTSMCの成功例は、そのリーダーシップと信頼がいかに重要かを示しています。私自身、大学の教授として若い世代に学び成長する機会を提供し、世界に羽ばたく環境を整えることが使命だと考えています。そのためには、私たち自身も学び続けなければなりません。

また、台湾と日本、特に九州との結びつきが深まることで、両地域が相互に利益を享受し、繁栄を共有できると期待しています。この会議は始まりに過ぎませんが、技術革新と協力が急速に変化する世界での成長の基盤であると信じています。若い世代の未来のため、平和と繁栄を目指し、共に努力していきたいと思えます。

スタンフォード大学 SLDDDRS 所長 / 西村俊彦氏



2日間の会議を通じて、台湾と九州の結びつきがさらに深まったと感じました。石原会長の開会宣言に始まり、信頼や協力の重要性が確認され、多くの分野で議論が深まりました。半導体産業ではTSMCやJASMが議論に加わり、中小企業の役割も明確になりました。また、高齢化や未病への新しい技術の可能性を共有し、金融分野でもシリコンバレーとの連携が見えてきました。

特に注目すべきは、宇宙産業や宇宙医学の議論において循環型経済の概念が強調されたことです。しかし、人材育成が議題として欠けていた点が課題だと感じました。若い世代が議論の場にはいない現状を変える必要があります。

九州と台湾の多くのステークホルダーが揃った今、リーダーシップを発揮し、新しいコンセプトを実行に移すべきです。3年後には台湾で次の会議を開催し、さらなる発展を目指したいと考えています。

5. 登壇者プロフィール ※所属・役職は2024年10月16日時点

九州経済フォーラム会長 / 石原進氏 【16日・17日登壇】



<プロフィール>

昭和20年東京都生まれ。東京大学法学部卒。
平成14年6月九州旅客鉄道株式会社代表取締役社長に就任。
現在は同社特別顧問。NHK経営委員長、福岡経済同友会代表幹事、九州経済連合会副会長、九州観光推進機構会長、在福岡トルコ共和国名誉総領事、北九州市立大学理事長などを歴任。

スタンフォード大学 SLDDRS 所長 / 西村俊彦氏 【16日・17日登壇】



<プロフィール>

東北大学医学部及び大学院卒業後、1997年スタンフォード大学医学部に勤務し臨床・基礎研究実施。2015年より麻酔科に所属し、臨床家・基礎研究者の実績より創薬医療機器開発機構所長に就任。
国立研究開発法人・科学技術振興機構(JST)アドバイザー。
国立研究開発法人・日本医療研修開発機構・SCARDA評価委員・アドバイザー等を歴任。

薩摩川内市 未来政策部 部長 / 古川英利氏 【16日登壇】



<プロフィール>

1987年川内市(当時)入庁。
2004年の市町村合併(9市町村)により薩摩川内市が誕生後、2008年秘書室長、シティセールス課長、観光・スポーツ対策監、商工観光部長、企画政策部長等を歴任。2022年4月より現職。
近畿大学理工学部土木工学科卒業。鹿児島大学大学院人文社会科学研究科(博士前期課程)修了。

アジア太平洋学術産業連携協会 理事長 / Chen-en Ko 氏 【16日・17日登壇】



<プロフィール>

国立台湾大学の前学部長であり、中華経済研究院(政府出資のシンクタンク)の社長兼理事長、大統領への経済顧問グループのメンバー、ROC(台湾)の中央銀行取締役会の監督者に任命された。
台湾行政院(台湾の内閣)科学技術の顧問を務め、長年にわたり台湾証券取引所、台北取引所ほか多くの上場企業の監督者及び取締役を(個別に)歴任した。
現在、APAAIC(Asia-Pacific Association for Academic and Industrial Cooperation)の理事長を務めており、特に、台湾と日本の間で国境をこえた産学の連携を促進している。
国立台湾大学名誉教授、慶應義塾大学の客員教授。

5. 登壇者プロフィール

TSMC シニア・バイス・プレジデント / Lora Ho 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

TSMCの人事担当シニア・バイス・プレジデント。
1999年からTSMCに勤務し、経理・財務担当を経て、2003年から2019年まで最高財務責任者、広報担当を務め、2019年から2022年までシニア・バイス・プレジデントとしてヨーロッパとアジアの販売担当を務めた。
2011年からESG委員会の委員長を務めている。

JASM 取締役社長 / 堀田 祐一 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd. (TSMC)の子会社であるJapan Advanced Semiconductor Manufacturing, Inc. (JASM)の社長。
2022年入社。
半導体業界で35年以上の経験を持ち、JASM入社以前はソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社で生産管理部長として事業管理、生産管理、生産能力計画、調達などを統括した。

Topco Group 会長代行 / Robert Lai 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

Topcoサイエンティフィック株式会社 グループ会長代行 兼
チーフ・サステナビリティ・オフィサー
経歴

- Topcoサイエンティフィック株式会社 代表取締役会長
- 国際中小企業評議会(ICSB)会長
- 台湾CSCB社 会長
- 経済部中小企業管理局 局長
- APEC中小企業ワーキンググループ 議長
- 国立台北大学経営学部 PHD
- ペンシルベニア・インディアナ大学経営学部 MBA

中華経済研究院 副院長 / Jiann-Chyuan Wang 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

中華経済研究院副院長 第三研究部部長
2008年7月 台湾スマートモビリティ協会(SMAT)会長
2019年～2022年 逢甲大学EMBA非常勤教授
2021年8月 アジア太平洋産業分析協会第9代会長
2019年～2021年 中華経済研究院第三研究室長
1999年11月～2006年2月 経済部顧問
2015年9月～2017年9月 経済部産業発展諮問委員会委員

5. 登壇者プロフィール

本多機工株式会社 代表取締役社長 / 龍造寺 健介 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

東京都生まれ。17歳で単身渡米留学。カリフォルニア美大卒業後、学生時代にアルバイトを始めた日本食レストランでマネージャーとなり、その後日本企業が出資する米レストラン会社で現地代表として、カリフォルニア・ハワイで16店舗を経営。1998年帰国。本多機工入社。高度外国人材の活用により社内グローバル化を推進、海外ネットワークを拡大。世界65か国以上の電力・鉄鋼・石油・化学・半導体・食品などへプロセスポンプを納入するグローバル企業へと成長させる。2005年より現職。

Chang Type Industrial Co. Vice president / Annie Chang 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

チャン・タイプ・インダストリアル株式会社の副社長。

以下、会社紹介。

当社は電動工具関連製品のメーカーです。現在4つの工場は全て台湾の台中にあり、100%世界中に輸出しています。当社の主要市場は米国であるため、米国の工具ブランドDELTAを買収し、米国サウスカロライナ州に物流倉庫とマーケティングチームを設立しました。当社の主な販売チャンネルは、ホームデポ、ロウズ、メナード、アマゾンなど、米国内の主要小売店です。

Gomore Inc 社長CEO / Hsin-Fu Kuo 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

AI技術によって世界の人々の健康を向上させることを専門とするGomore inc.のCEO。同社は、フィットネス、ウェルネス、医療AIアルゴリズムを搭載した140以上のウェアラブルデバイスのライセンスを通じて、健康とウェルネスの向上に注力しており、現在までに1,000万以上のウェアラブルデバイスにGomoreアルゴリズムが組み込まれている。一方、Gomoreは企業のウェルネスを高める手段として、従業員の健康を促進するプラットフォームを構築している。

NTHU材料科学・工学博士。応用化学修士号取得(NTHU)。経営工学学士号取得(CYCU)。

Aves Capital Group 常務取締役 / Susan Ko 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

アジア、ヨーロッパ、アメリカのグローバルクライアントの最重要課題に対するアドバイスの実績を持つ、ベテランの戦略・オペレーションコンサルタント。企業およびスタートアップの両方で豊富な経験を有し、複雑な成長・変革フェーズにおいて企業を成功に導いてきた。また、老舗企業や革新的な新興企業でトップの管理職を歴任し、多様な市場や業界に対する包括的な理解を深めてきた。国立台湾大学でEMBA、IESEビジネススクールでMBAを取得。厳格な方法論と実践的な洞察力を組み合わせ、ビジネスの持続的な成功を促進するインパクトのあるソリューションを一貫して提供している。

5. 登壇者プロフィール

福岡県知事 / 服部 誠太郎 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

中央大学法学部卒業
昭和52年 福岡県庁入庁 福岡農林事務所 土木部河川課等で勤務
平成16年 総務部私学学事振興局学事課長
平成18年 総務部財政課長
平成21年 総務部次長
平成22年 福祉労働部長
平成23年 福岡県副知事
令和3年より福岡県知事

名古屋大学 教授 / 天野 浩 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

1988年4月 名古屋大学工学部助手
1992年4月 名城大学で勤務
2010年4月 名古屋大学大学院工学研究科教授
2015年10月 名古屋大学未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス
集積研究センター長・教授に就任
故赤崎勇博士、中村修二カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授と共に
「高輝度、省エネルギーの白色光源を可能とした高効率青色発光ダイオード
の発明」にて2014年ノーベル物理学賞を受賞。

九州大学 総長 / 石橋 達朗 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

昭和50年3月 九州大学医学部卒業 九州大学医学部眼科学教室入局
昭和56年3月 九州大学大学院医学研究科(病理学教室)卒業
九州大学医学部眼科助手
平成7年4月 九州大学医学部眼科助教授
平成13年9月 九州大学大学院医学研究院眼科学分野教授
平成25年4月 九州大学副学長兼任
平成26年4月 九州大学病院長兼任
平成30年4月 九州大学理事・副学長
令和2年4月 九州大学理事・副学長/
先端医療オープンイノベーションセンター長(兼務)
令和2年10月 九州大学総長

九州大学 副学長 / 白谷 正治 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

1988年4月 九州大学工学部助手
2006年2月 九州大学大学院システム情報科学研究院教授
2010年10月 九州大学プラズマナノ界面工学センター長併任
2021年4月 九州大学高等研究院長併任
2022年10月 九州大学副学長併任
2023年 Plasma Materials Science Hall of Fame Prize受賞
(日本人現役教授初)

5. 登壇者プロフィール

株式会社Fusic 取締役副社長 / 浜崎 陽一郎 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

1976年大阪府吹田市生まれ。2003年大学院在学中に同級生の納富(現・代表取締役)と2人で株式会社Fusicを起業。事業責任者として新技術の選定、それを元にした市場開拓に従事。現在はクラウドコンピューティングおよびAIを柱に据えて事業を展開。2023年3月31日、東京証券取引所グロース市場及び福岡証券取引所Qボードに重複上場。九州大学大学院システム情報科学府情報工学専攻修了
RKB毎日放送「サンデーウォッチ」「タダイマ」
KBC朝日放送「アサデス。ラジオ」にコメンテーターとして出演中。

JAXA 宇宙戦略基金事業部 次長 / 上村 俊作 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

九州大学経済学部を卒業後、宇宙業界(JAXA)に足を踏み入れ四半世紀、主に外部・民間等との共創に注力。文部科学省、宇宙教育を担う(財)日本宇宙少年団(松本零士理事長(当時))、(株)電通に出向、民間出身JAXA理事長の秘書役を約3年務める。JAXAに新設された宇宙戦略基金に2023年8月から携わり、これまでの事業開発・再生・支援経験も活かし「世界で勝ち誇れる技術、製品・サービスを生み出したい」と意気込む。九州地域では、複数の自治体・JC(日本青年会議所)・民間事業にも参画(兼業)し、人材育成、地域振興にも熱心。24年9月、一般社団法人九州みらい共創を立ち上げ、代表理事に就任。パラレルワーカー。Early・Small・Success & Goalを常に意識。鹿児島市出身。

株式会社QPS研究所 ファウンダー / 八坂 哲雄 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士過程修了。工学博士。卒業後、東京大学宇宙航空研究所助手を務めた後にNTT研究所へ入社。1994年、九州大学教授に就任。退官後、九州大学学生への小型衛星開発の技術伝承と九州地域企業に宇宙産業を根付かせるために他教授と専門家とともにQPS研究所を2005年に創業。2003年にはUNISEC(大学宇宙工学コンソーシアム)初代理事長に就任、2008年から2012年にはIAF(国際宇宙航行連盟)副理事長を務めるなど、宇宙開発の発展、未来の人材育成に努めて世界の宇宙産業の分野に大きく貢献。2006年にFrank J. Malina Astronautics Medalを受賞。また、早くからスペース・デブリに取り組み、1990年に研究グループJSASSを立ち上げ、著書に「宇宙のゴミ問題―スペース・デブリ」(裳華房1997年)がある。

5. 登壇者プロフィール

株式会社インフォステラ 代表取締役 CEO / 倉原 直美 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

2010年九州工業大学大学院博士後期課程修了(電気電子工学専攻)。在学中は人工衛星の環境計測装置の研究開発に従事。その後、東京大学工学系研究科航空宇宙工学専攻の研究者として、2013年まで低軌道衛星の開発プロジェクトに携わる。プロジェクト終了後、大手衛星運用システムメーカー勤務を経て、2016年にインフォステラを共同設立。宇宙開発の新時代に向けた通信サービスの会社として、クラウドベースの地上局プラットフォーム「StellarStation」を開発し、衛星の運用に必要な地上の通信設備を貸し出す地上局サービス事業を運営している。

神奈川県知事 / 黒岩 祐治 氏 【16日 ビデオメッセージ】



<プロフィール>

1954年兵庫県神戸市出身。1980年フジテレビジョン入社。2009年国際医療福祉大学大学院教授に着任。2011年4月神奈川県知事に就任、現在四期目。超高齢社会を乗り越えるため、「最先端医療と最新技術の追求」と「未病(ME-BYO)の改善」の2つのアプローチで「ヘルスケア・ニューフロンティア」政策を推進。2022年9月、国連機関等が連携して選出する「The Healthy Ageing 50」(高齢化社会をより良くする世界のリーダー50人)に日本人として唯一選出。

慶應義塾大学 特任教授 / 名倉 武雄 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

(学歴)

1992年 慶應義塾大学医学部卒業

1998年 慶應義塾大学大学院医学研究科修了・医学博士

(職歴)

1992 - 1998 慶應義塾大学医学部整形外科

1999 - 2001 スタンフォード大学工学部訪問研究員

2002 - 2004 慶應義塾大学医学部整形外科・特別研究員

2004 - 2009 慶應義塾大学医学部整形外科・特別研究講師

2009 - 2010 慶應義塾大学医学部運動器生体工学寄附講座・特別研究講師

2010 - 慶應義塾大学医学部運動器生体工学寄附講座・特任准教授

2019 - 慶應義塾大学医学部運動器生体工学寄附講座・特任教授

福岡市 福祉局 ユマニチュード推進部 部長 / 笠井 浩一 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

1995年4月福岡市役所入庁。ホームレス担当のケースワーカーを皮切りに、教育委員会、人事委員会、「ねんりんピック福岡2005」福岡市実行委員会、環境局と多種多様な業務を経験し、2017年4月より保健福祉局(現：福祉局)。「認知症フレンドリーシティプロジェクト」を立ち上げから担当し、2024年4月より現職。

5. 登壇者プロフィール

医療法人すずらん会 たろうクリニック理事長 院長 / 内田直樹氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

医療法人すずらん会たろうクリニック理事長、精神科医、医学博士。認知症の専門医として在宅医療に携わるかたわらで、福岡市を認知症フレンドリーな街とする取り組みを行なっている。NPO地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク常任理事、みんなのケア情報学会理事など、認知症や在宅医療に関わる団体において役職多数。自身でもプログラミングを行うなど、テクノロジーの活用にも積極的である。編著に「認知症プライマリケアまるごとガイド」(中央法規出版)

慶應義塾大学 教授 / 満倉靖恵氏 【16日・17日 登壇】



<プロフィール>

1999年4月徳島大学工学部知能情報工学科助手、2001年岡山大学専任講師などを経て2011年4月慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科准教授。2018年4月より同教授。博士(工学)、博士(医学)。生体信号解析、脳神経科学、精神疾患の研究に従事。IEEE、日本呼吸器学会、日本高次脳機能障害学会、日本神経心理学会、計測自動制御学会などの正会員。

Lee's Medical Corporation Chief Superintendent / Hsu-Tung Lee 氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

<現職>リーズメディカル株式会社最高管理責任者
台中退役軍人総合病院細胞治療・再生医療センター副センター長
<学歴>
1990年台湾台北国防医学センター 医学部卒業 医学博士号取得
2016年台湾台北国防医療センター 医学研究院 博士号
2017年国立台湾大学EMBA

株式会社MPJ 会長 / 大口貴弘氏 【16日 登壇】



<プロフィール>

「OGUCHI式メソッド」「OGUCHI式美整体」といわれる独自の考えをベースとした鍼灸+カイロプラクティックを複合させた施術を提供している日本を代表する施術者。

上場企業経営者をはじめ一流著名人、サッカー日本代表選手、WBC野球日本代表選手、数多くのオリンピック金メダリストなどプロアスリート界からの信頼も厚い。

(資格・経歴)

OGUCHI式 会長

鍼灸師・柔道整復師

5 Stars Medical Club CLINIC 9ru スペシャルアドバイザー

東京皮膚科形成外科 顧問

スピーケアMES アンバサダー兼技術監修

GMコーポレーション 顧問

5. 登壇者プロフィール

一般社団法人九州経済連合会 会長 / 倉富 純男 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

1978年(昭和53)青山学院大法卒、同年西日本鉄道入社。2003年流通レジヤ事業部長、2007年執行役員、2008年取締役執行役員、2011年同常務執行役員、2013年社長、2021年より会長。九州経済連合会会長。

国立研究開発法人情報通信研究機構 理事 / 安井 元昭 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

九州大学出身の宇宙研究者
平成8年4月郵政省(通信総合研究所)採用
平成30年4月国立研究開発法人情報通信研究機構経営企画部長
令和3年4月国立研究開発法人情報通信研究機構執行役
令和5年4月現職

株式会社minsora 代表取締役社長 / 高山 久信 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

1973年三菱電機株式会社に入社後、宇宙システム事業にて営業や事業企画部長として、総額5,000億円超の宇宙プロジェクトの企画・予算化、事業戦略策定や営業活動等に従事。宇宙業界で40年超の経験を持ち、宇宙に係る知見と宇宙から非宇宙の企業や団体とのネットワークを活かして、2019年に(株)minsoraを起業。現在、九州を中心に企業や自治体に対して伴走型事業創出活動や次代を担う子どもたちや一般の方々への宇宙講座やセミナー等を提供。1954年大分県豊後大野市生まれ。

株式会社ACCESS 取締役 執行役員CTO / 植松 理昌 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

ACCESSにてMobile Internet向けコンパクトブラウザNetFrontの設計開発に従事しi-modeサービスの立ち上げと世界展開へ挑戦。放送とネットの融合のタイミングではTV向けのデータ放送向けブラウザを開発する等、ネットワーク技術の進化が世界を変えるきっかけとなるソフトウェアを開発し世界に展開することに拘る。
東京大学情報科学科修士。

5. 登壇者プロフィール

東北大学 東北メディカル・メガバンク 機構長 / 山本 雅之 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

1954年 群馬県生まれ

1979年 東北大学医学部 卒業

1983年 同大学院医学研究科 修了(医学博士)

1983年 ノースウエスタン大学 留学

1995年 筑波大学 先端学際領域研究センター 教授

2007年 東北大学 医学系研究科 医化学分野 教授

2008年 東北大学 副学長 医学系研究科 研究科長/ 医学部 学部長
(2012年3月まで)

2012年 東北メディカル・メガバンク機構 機構長(現在に至る)

2012年 日本学術会議会員(2017年9月まで)

2023年 東北メディカル・メガバンク機構 分子医化学分野 教授
(現在に至る)

主な受賞歴

紫綬褒章(2012年) 日本学士院賞(2014年)

合同会社ツクル代表社員 / 三宅 創太 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

合同会社ツクル 代表社員

ダイヤモンド株式会社 元取締役COO(月面ローバーYAOKI)

月面開発フォーラム 元統括プロデューサー

日本イノベーション融合学会 理事

社会システムデザイナー/戦略コンサルタント/地域活性化プロデューサー

「新しいビジネスモデルをともにツクル」を理念に掲げ、国家戦略特区の事業企画、宇宙産業の市場開発、サービスロボットの社会実装、日本各地の伝統工芸の持続的な環境創出のほか、農業・医療・まちづくりなど、幅広い事業で活動している。

実践的な活動に基づいた先鋭的な事業コンセプト、中長期的な産業創出シナリオの作成を得意とする。

慶應義塾大学 名誉教授 / 足立 修一 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

慶應義塾大学大学院博士課程修了、工学博士。東芝総合研究所を経て、1990年宇都宮大学工学部電気電子工学科助教授、2002年同教授。ケンブリッジ大学客員研究員を経て、2006年慶應義塾大学理工学部物理情報工学科教授、2023年同名誉教授。計測自動制御学会理事、日本鉄鋼協会理事、科学技術振興機構(JST)アドバイザーなどを歴任。制御工学、特にシステム同定、カルマンフィルタなどのモデリング、推定理論とそれらの産業応用を研究。

5. 登壇者プロフィール

国立陽明交通大学 教授 / Jeff Chen 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

生物医学データ分析、新技術ベンチャーのサポートと投資、企業再生管理、米国、日本、台湾における機関の持続可能な戦略計画における産学の取組に従事している。国立陽明交通大学(NYCU)の生物医学EMBAと情報管理及び金融学部、もう一つは国立台湾大学(NTU)の医学部と経営学部の2つの教職を務めている。また、日本の京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)の客員教授、台湾の中央研究院生物医学翻訳研究センターの客員教授も務めている。国立台湾大学(NTU)で医療データサイエンスの分野で情報学資号を取得後、同大学でMBAの学位を取得。南カリフォルニア大学(USC)で電気工学の修士号を取得しており、スタンフォード大学医学部生物医療データ科学科で客員研究員として働いている。

国立台湾大学 教授 / Konrad Young 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

半導体業界で37年の経験を持ち、インテル上級顧問やTSMC研究開発部長などの要職を歴任。カリフォルニア大学バークレー校で博士号を取得し、TSMCの研究開発の中心人物として2001年に0.13ミクロン・プロセスの開発を主導した。この功績によりTSMCは大きな競争力を獲得した。また、米国、シンガポール、台湾の半導体企業数社に勤務し、メイヨー・ヒューマン・キャピタルの社外取締役も務めている。2023年にインテルのコンサルタントを退任。

KORVA Links Senior Advisor / Vincent Lin 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

製造業で30年以上の経験を持ち、TSMC、MediaTek、Richtekで12年以上上級管理職を務める。半導体部門のDX化と情報システム開発を主導。また、製品開発、サプライチェーン管理、ビッグデータ分析、企業変革などのソリューションを成功させ、顧客から高い評価を得ている。WonderlandとHaierの副社長、MediaTek/Richtekのシニア・ディレクター、HP Asia Pacificのコンサルティング・リードおよびプリンシパル・コンサルタント、ITRIの研究員などを歴任。

野村インターナショナル(香港)リミテッド 常務取締役 / Shine Lin 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

2010年より、グローバルマーケット台湾ディストリビューション事業を牽引。シンガポール、香港、台北で15年間にわたり野村グループのサービスを提供している。日本の親会社から始まった「グローバルマーケット事業部門」は、野村グループの最良のサービスと製品を取り入れた、顧客に合わせた解決策を提供することを目指している。野村グループに入社する前は、ロイヤルバンク・オブ・スコットランドグループ(RBS)、ABNアムログループ、シティバンクで複数のシニアセールス職に従事。国立台湾大会計学科を卒業。イギリスと台湾の両方で公認会計士(CPA)の資格を保有。

5. 登壇者プロフィール

株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ 取締役副社長 / 山口 泰久氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

1986年日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。2006年知財開発投資(株)(現DBJキャピタル)を社内ベンチャーとして創設し、10年に渡り運営。2017年福岡銀行の要請によりFFGベンチャービジネスパートナーズに移籍し、九州大学発ベンチャー振興会議と連携するファンドの運用を開始。現在、九州で最大規模のベンチャーファンドを運用中。2019年長崎大学にアントレプレナーシップセンターを開設した他、2022年九州立地の18大学からなる大学連合「PARKS」を設立し、九州におけるベンチャーエコシステムの育成に注力。九州工業大学客員教授。

CDIB capital Innovation Accelerator 社長 / Ryan Kuo 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

CDIBキャピタル・イノベーション・アクセラレーター、イノベーション・ファンドI、CDIBクロスボーダー・イノベーション・ファンドIIの設立に社長代行として参画。モスアート・セミコンダクターを設立し、社長として世界有数の無線通信チップを開発する研究開発チームを率いた。ハイテク業界で20年以上の起業経験がある。

Industrial Techonology Investment Corporation CEO / Michel Chu 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

連続起業家、投資家、非常勤講師、アドバイザー、起業家コーチ。現在、運用資産6億米ドルを超えるベンチャーキャピタル、ITICのCEO兼社長。また、台湾政府の国家科学技術委員会科学技術諮問委員会のライフサイエンス副委員長、国立台湾大学の非常勤助教授も務める。クラウド・コンピューティング、モバイル・インターネット、ハードウェア、医療機器など多様な分野における幅広い専門知識を持つ。エンジェル投資家として、20年以上にわたって起業家チームの指導、育成、支援、促進に携わる。スタートアップ企業、特に大学から技術スピンアウトした企業の支援に実績あり。

Sozo Ventures シニア・マネージング・ディレクター / 中村 幸一郎氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

早稲田大学法学部在学中にヤフージャパンの創業・立ち上げに孫泰蔵氏とともに関わる。三菱商事では、通信キャリアや投資の事業従事し、インキュベーションファンドの事業などを担当。早大法学士、シカゴ大学MBAをそれぞれ修了。米国のベンチャーキャピタリスト育成機関であるカウフマンフェローズを2012年に修了。同年にSozo Venturesを創業。ベンチャーキャピタリストのグローバルランキングであるMidas List 100の21年版に日本人として72位で初めてランクイン、23年度版のランクでは55位。シカゴ大学起業家教育センターのアドバイザーを22年より務める。

5. 登壇者プロフィール

立命館アジア太平洋大学 教授 / 藤田 正典 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

京都大学卒業後、三菱商事株式会社入社。新規IT事業開発、金属資源開発、全社情報システム企画などを経験。複数のIT関連ベンチャー子会社を設立し、これらの会社の取締役などに就任。在職中に、経営学修士、情報システム学修士、技術経営修士、工学博士の学位を取得。経営学、技術経営、知能システム科学などを専門とし、産業技術大学院大学 特任教授、名古屋商科大学客員教授などを歴任後、現職。

東京大学大学院特任研究員、政策研究大学院大学客員研究員、研究・イノベーション学会業務理事、文部科学省科学技術・学術政策研究所 技術審査専門員などを務める。

学校法人立命館 総務部長 財務部長 総合企画部長 / 酒井 克也 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

立命館大学産業社会学部を卒業後、立命館に2004年4月に入職。財務部門やAPUで勤務。財務部門では2012年以降資産運用を担当、2019年にRIMIXの取組み立ち上げがきっかけとなり、2021年の起業・事業化推進室の設置へとつながる。2020年人事部に異動、2022年4月に財務部長と総合企画部長(起業・事業化推進担当)になり、2024年6月より現職。

九州大学 名誉教授 / 安浦 寛人 氏 【17日 登壇】



<プロフィール>

1953年福岡県生まれ。1976年京都大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。工学博士。

専門は情報工学、システムLSI設計技術、社会情報基盤。

京都大学工学部助手、助教授を経て、1991年より九州大学大学院総合理工学研究科教授。

九州大学大学院システム情報科学研究院教授、同研究院長を経て、2008年10月より2020年9月まで九州大学理事・副学長。

また、2001年4月には九州大学システムLSI研究センターを立ち上げ、2010年までセンター長を兼任。

現在は九州大学名誉教授。

6. 当日の様子(写真)



6. 当日の様子(写真)



6. 当日の様子(写真)

10月16日(水) 登壇者 集合写真



10月17日(木) 登壇者 集合写真



編集・発行 九州・台湾クリエイティブカンファレンス in 福岡 実行委員会事務局
(九州経済フォーラム事務局)

一般社団法人福岡県中小企業経営者協会連合会内
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9-15
福岡県中小企業振興センタービル11階 116号室
E-mail : kefinfo@chukeikyo.com